

# グローバル事業

NTT東日本のグローバル事業では、長年の海外プロジェクトで培ったノウハウやリレーションを活用し、各種システムの内製化をオフショア開発で下支えするソフトウェア事業と、ベトナムを中心とした東南アジア諸国における地域の価値創造に向けた事業開発に、子会社NTTイーアジアと連携して取り組んでいます。

## ソフトウェア事業

NTT東日本は、通信インフラの上に地域のお客さまに新たな価値を生み出すソーシャルイノベーション企業をめざしていますが、そのためにはソフトウェア開発の内製力の強化が必要となります。そこで、安価でスピーディーなソフトウェア開発の実現をめざし、NTT東日本内の内製化プロジェクトチームと共に、NTT東日本の関連会社であるベトナムのOCG Technology JSC（以下、OCG）を活用したオフショア開発体制の確立に取り組んでいます。

OCGは、ベトナムの国営通信キャリアVNPT社と、NTT東日本の子会社であるNTTイーアジアとの合弁会社として、2016年にベトナムハノイにて設立されました。現在は、オフショア拠点として、ソフトウェア開発に加え、データ分析や管理指標の見える化などのサービスを提供しています。案件の急拡大に伴い、積極的にエンジニア採用を行っており、現在100人を超える社員が在籍しています。日本語を用いた要件定義が可能な優秀なベトナム人エンジニアも多数在籍しているため、日本企業のお客さまの課題を十分に理解し、解決に向け柔軟な対応が可能な、スムーズな開発を実施できることが強みの1つです。

さらに、NTT東日本と同水準のセキュリティ運用体制、および物理的セキュリティ対策を整備し、個人情報の取り扱いが必要な業務も強固なセキュリティ体制のもと、遂行しています。2023年5月には、ISMS認証（ISO／IEC27001）も取得し、安心して開発やITO（Information Technology Outsourcing）をできる環境にあります。

NTT東日本ではソフトウェア開発手段として、ローコード開発プラットフォームのマーケットリーダーであるOutSystemsに着目してきました。NTT東日本の社員がソフトウェア開発の上流工程を実施しつつ、OCGのエンジニアがOutSystemsを使った開発を実施することにより、開発スピードの向上とコスト削減を実現できました。ローコード開発プラットフォームでは、あらかじめ用意された部品を組み合わせる手法で、機能設計の段階からGUIによる視覚的な操作で開発を進めることができます。コーディング作業が減り、テスト工程を削減できるため、開発期間を大幅に削減しつつ品質も高くなるというメリットが証明されています。

OCG×OutSystemsの取り組みは、まずNTT東日本の業務システム開発から始めましたが、専門性の高い複雑な業務や、多数の他システムとのAPI（Application Programming Interface）連携という要件に対しても、柔軟かつスピーディーに開発することが可能になりました。

開発過程において、OCGのエンジニアが来日し、システム利用者と顔を合わせた集中議論を行うなど、エンジニアが実業務を深く理解することで、真の目的に沿ってユーザーインターフェースを改善し、提案型のシステム構築を行いました。このような形で、OutSystemsをはじめとして、Microsoft Power Platformなどの開発プラットフォームを用い、NTTグループの業務システム開発で実績を積み重ねてきました。

加えて、OCGではデータ集計・分析業務のようなIT関連業務（定型的な運用業務のアウトソーシング）にも注力しており、お客さまの本来の分析業務に関わる稼働の創出に貢献しています。例えば、NTT東日本が食材のムダを防ぐために行っている食堂データの集計分析業務をOCGが行っています。維持管理稼働に悩んでいたNTT東日本の社員は、新たな課題に取り組めるようになり、生産性が上がりました。

OCGでは、そのようなNTT東日本の業務システムの実績をベースに、社外のお客さま向けのシステム開発も行っています。例えば、顧客情報や折衝記録などをファイルベースで管理しており、情報が個人に偏ってしまっているというお客さまの課題に対しては、OutSystemsを用いて営業情報のデータベース化を行い、簡易なプロトタイプを作成した上で、機能追加や改善を行うアジャイルな開発手法をお勧めしました。

NTT東日本・NTTイーアジア・OCGは、お客さまご自身がソフトウェア開発力を身に付けることをお手伝いするパートナーになりたいとも思っており、エンジニア育成のお手伝いもしています。例えば、ソフトウェア開発だけでなく、人材育成の場としてグローバルな視点を持つ社員の育成にも注力し、NTT東日本の社員が日本でソフトウェア開発の基礎を学び、さらにベトナムに滞在してOCGの社員と実開発案件に取り組む研修プログラムを実施しました。このプログラムは、日本と歴史的背景や文化が異なる環境下において、日本人スタッフがOCGのベトナム人社員と開発業務を1つのチームとして取り組むことで、ソフトウェア開発の上流工程や下流工程の技術を習得できるだけでなく、異文化受容性や語学力、コミュニケーション力を向上できる良さもあります。このようにデジタル&グローバル人材の育成の場として、お客さまに提供できる育成プログラムを企画、提供していきます。

今後もOCGは、日本を始めとするアジア圏において、カスタマサクセス型の伴走開発、ならびに技術者育成を通じてお客さまと一緒に価値共創ができる企業をめざし、NTT東日本グループ一体となって取り組んでいきます。

NTT東日本は、これまで通信事業者として保有する通信関連の技術を各国に提供してきましたが、ソフトウェア開発では、IT人材大国に成長したベトナムの力に助けられています。日本の技術を諸外国に提供するだけでなく、東南アジア各国の優れた力を日本に取り込んでいくような、建設的な相互関係を形成していきたいと考えています。

※OutSystemsはOutSystems社の登録商標です。

※Microsoft Power Platformはマイクロソフトグループの登録商標です。

## アジア事業開発

### ●サステナブルな通信インフラ

#### ○ベトナム

ベトナム南部に位置するビンズオン省では、省を挙げてスマートシティの実現に取り組んでおり、新都市開発や工業都市開発が積極的に進められています。

NTT東日本では、ビンズオン省の公営デベロッパーであるBECAMEX社とスマートシティ化の早期実現に向けた通信・ICT分野での協力覚書を締結し、お互いのグループ会社（NTTイーアジア、VNTT）を通じて同省のICTインフラ整備事業を実施中です。

NTT東日本の経験・ノウハウを活用し、高品質な光回線設備の新規構築や既設設備の品質改善に向けた技術支援、マネージドサービス付Wi-Fiなどの高付加価値サービスの現地導入・提供支援を進めています。

#### ○インドネシア

光回線の普及・拡大が著しいインドネシアにおいて、NTT東日本の経験・ノウハウを活用し、現地最大手の通信事業者PTテレコム of 要望に応じた光アクセス設備の品質向上・運用コスト削減に向けた現地技術者の指導・育成に取り組んでいます。

#### ○ブータン

2018年11月より2022年1月まで、JICAの技術協力プロジェクト「ブータン国災害対策強化に向けた通信BCP策定プロジェクト」へ参画し、NTT東日本の防災に取り組む経験や技術を活かし、ブータン国の国営通信会社であるブータンテレコムの事業継続計画（BCP）の策定・運用に向けた取り組みを支援しました。

現在はBCP、ネットワークの運用保守に関する技術などの協力要請に基づき技術交流を行っています。

### ●DXによる地域の価値創造

これまで20年以上にわたりベトナムを中心にNTT東日本グループの技術やノウハウを活用し、現地の事業パートナーと協力関係を築きながら、前述のような通信インフラや付加価値サービスの提供によるICTインフラ整備事業を進めてきました。また、近年では従来のインフラ事業に加えて、DXを活用した新規事業の形成に取り組んでいます。

今後は、ベトナム以外の国々も含む東南アジア諸国の地域・コミュニティの価値創造への貢献、さらには持続可能な循環型地域社会の共創に向けて、非通信分野を含むさまざまな事業の発掘、形成、立ち上げを推進していきます。それに向けて、NTTイーアジアでは、2023年7月にホーチミン・シンガポール・ジャカルタに新たな拠点を開設しました。現地のさまざまな企業、団体、政府機関などとの緊密な連携を図りながら、現地企業とのパートナーシップを強化し、各国における持続可能な事業展開をめざしています。

### <NTT東日本グループの海外拠点>



### (参考) 国際協力

・開発途上国の情報通信分野における発展に寄与することを目的として、技術協力専門家の派遣、青年海外協力隊の派遣支援、研修員の受け入れを行っています。

(例) 技術協力専門家の派遣：政府要請に基づき1960年日本電信電話公社（当時）からのカンボジア派遣に始まりました。直近では2018年11月に国際協力機構（JICA）から「ブータン国災害対策強化に向けた通信BCP策定プロジェクト」を受託し、通信の災害対策に関する専門家を派遣しています。